



## <改訂版> 気仙三十三観音霊場巡礼

### 『祈りの道』 被災地巡礼

著者 佐々木克孝

AB判(タテ25.7cm、ヨコ21cm)

全196ページ/オールカラー写真

定価 1,800円+税

平成25年4月発刊

気仙三十三観音霊場札所めぐり「祈りの道」を発刊してから半年後、平成23年3月11日に東日本大震災が発生した。震災による大津波で犠牲になった多くの方々にとって、あまりにも突然の出来事だったことだろう。

千年に一度の規模といわれる水魔は、いにしえより地域を護り、心のよりどころとなっている聖域さえも容赦なく奪い去った。海岸近くにあった歴史のある神社仏閣も壊滅的被害を受けた。

「被災地巡礼」を思い立ったのは、震災から一カ月後。とにかく海岸部にあった観音札所がどうなっているのか、ご本尊は無事だろうか、この目で確かめたかった。目を覆うばかりの惨状に言葉を失う。確認できただけでも、被災した札所は十カ所にも及んでいた。

この夏、札所をもう一度歩いてみようと思っていた矢先、気仙三十三観音霊場の道を再興しようという支援団体によるプロジェクトが動き出していることを知った。「ひとさじの会」。東京の浅草をエリアに路上生活者に月2回、おむすびを配る活動を続けている若いお坊さんたちだった。

今回の紙上企画「被災地巡礼」で取り上げた内容を、初版「祈りの道」と合わせて再発行しようと思ったのは、津波で本が流されてしまったという方々からの声もあったが、被災地住民の“心の寄る辺”復活を願って、ホームページでの霊場紹介や、巡礼ガイドマップ、札所の御朱印作成などご支援いただいた、「ひとさじの会」の方々の熱意に背中を押されたからだ。

本書には、津波に流され、二度と見るができなくなった寺院や風景などの写真もいくつか収録している。この本の力はささやかなものかもしれないが、被害を受けられた方々や、いつか気仙巡礼の道を歩いてみたいと思っている方々のもとに届くことを願っている。



## 思い出写真館 <大船渡市・陸前高田市> 『こころの情景』

A4判(タテ21cm、ヨコ29.7cm)

全128ページ

定価 1,500円+税

平成24年8月発刊

これまでの日常の取材活動で撮り続けてきたふるさとの風景が記録として残ってる。その一コマ一コマが被災した人々や、復興に向けてボランティア活動をしている人にとって心の支えになれば、との思いからスタート。

『自然がつくった景観を根底から覆すような破壊が、その自然からもたらされた。多くの人命と生活が、そして美しいふるさとの景観が一瞬にして失われてしまったのです』。平成23年7月22日付『こころの情景～思い出写真館』が、こうして始まった。

「失われた風景をもっと見たい」との声にも励まされ、本シリーズは続編を合わせ200回を超えた。

この中には、読者からの提供写真も何枚か掲載。また、その多くは先輩記者たちが残してくれたカメラ目線の積み重ね。これなくして本書は生まれなかった。

1枚の写真には多くの記憶が詰まっている。記憶を語り継ぐ、次代に伝える。それと同じように、未来へ伝えたい失われた景色がある。復興には長い年月がかかると思う。しかし、いつかまた、以前よりもっと美しい風景がよみがえる日が来ることを信じたい。

快く写真を提供してくださった方々に深く感謝申し上げます。



## 平成三陸大津波記録集第2弾

# 『鎮魂 3.11』

岩手県気仙地域（大船渡市・陸前高田市・住田町）の  
被災と復興の記録

A 4判(タテ29.7cm、ヨコ21cm)

2巻セット

I / 被災からの軌跡(200ページ)

II / そして、地域は（172ページ）

函入り

写真オールカラー

特別編集版DVD付 「大船渡湾口防波堤倒壊など」

価格 3,000円＋税

平成24年3月発刊

平成23年(2011年)3月11日14時46分、三陸沖を震源とする観測史上最大のM9.0という巨大地震が発生、宮城県北部で震度7を記録した。この地震は東北太平洋沿岸を中心とする500kmにも及ぶ地域に巨大津波をもたらし、およそ1万6000人余りに及ぶ死者を出しただけでなく、未だ行方不明となっている方もいる。この歴史的な大災害に遭遇し、その現場に居合わせた者としてかつ歴史の証言者としてわれわれはこの記録を後世に伝える必要性を痛感した。それは今後いかなる大災害に際会しても再びこのように多くの犠牲が出ないように、この体験によって得た教訓を余すところなく申し送りし、悲惨な体験が絶対に風化しないよう最大限の努力を惜しむべきでないということである。いたずらに拙速に走ることなく、真に後世のための防災の手引きとなるような記録にしようとして1年間の準備期間を設けることにしたのはそのためである。一方、当社の記録だけでは自ずと限度があり、より広範囲な視点からこの災害を検証するためにも、地元だけでなく、関係する多方面からも協力を求め、被災地全体を網羅しようということとなり、広く資料の提供を呼びかけたところ実に多くの方々から賛同を得ることができた。そういう意味で、この記録集は気仙地域全体の共同作品とも言えよう。

この大津波は、自然の持つエネルギーの前に人間などいかに非力な存在かをいやというほど思い知らせたが、その厳然たる事実を忘れることなく、常に大自然と敬虔に向き合うためのよすがとしてこの記録が役立つことを念じてやまない。



モスバーガーを創った男の物語

## 『羅針盤の針は夢に向け』

著者 木下繁喜

A5判(タテ21cm、ヨコ14.8cm)

全412ページ

定価 1,800円(税込)

平成23年3月発刊

Amazonでもご購入できます

モスバーガーを創った男の物語「羅針盤の針は夢に向け」

純国産資本で大手ハンバーガーチェーン「モスバーガー」を展開する(株)モスフードサービスを創業した櫻田慧氏(大船渡市出身)その波瀾の生涯、櫻田氏の生き様と「櫻田イズム」。

閉塞感漂う今日、年代や性別、職業を超えて人として生き方を問い直し、夢と希望を与えてくれる一冊。

この本は、平成20年4月から3年間にわたって東海新報紙上で毎週日曜日に連載してきた『モスバーガーを創った男』をもとに、出版用として書き換えたもの。新聞紙上では掲載されなかった事実やエピソードを加筆し、17章からなる構成も一部変更。「終章」は全面的に書き換えるなどした。

出版に当たり、モスフードサービスの櫻田社長(当時)は「この本を熱い思いで読破しました。櫻田の際立つパーソナリティと櫻田イズム、櫻田を熟知していると思っていた私でさえ驚かされるほどの挑戦と挫折を繰り返し、いかに心血を注いでモスバーガーの創業に至ったかを思うと改めて引き継ぐものの大きさと責任を重く感じました」と語っている。また、野下氏は「櫻田慧さんは快男児という言葉がぴったり当てはまる素晴らしい方でした。この本で彼の思想、人柄、努力、業績を余すことなく知っていただけたらと思うと、とてもうれしい。みなさんには大きな感動をもって読んでいただけたらと信じています」と話している。